

研究会「長期予報と大気大循環」のご案内

「長期予報研究連絡会」では下記の予定で研究会「長期予報と大気大循環」を開催します。

近年では、対流圏の大気循環が成層圏へ影響を及ぼすだけでなく、成層圏が対流圏へ影響を及ぼすことが多くの研究で指摘され、長期予報の予測可能性のソースとしても注目されています。また、最近では北極海の海水域面積の減少傾向が明瞭で、海水域の減少が大気循環場へ及ぼす影響についての関心が高まっています。

そこで、今年のテーマは「成層圏-対流圏-雪氷の相互作用と予測可能性」とし、そのメカニズムや予測可能性に関する最新の研究成果を議論することにします。また、極域の現象の理解にとどまらず、それらの現象が東アジア等の中緯度の天候へ及ぼす影響など、幅広い分野からの話題提供を期待しています。

講演の申し込み締め切りは2016年10月28日（金）です。講演を希望される方は、下記連絡先まで電子メー

ルで簡単な要旨（テキスト数行程度以上）をお送りください。1講演あたりの講演時間は20分程度を予定しています。また、発表された方には、研究会後に当会のホームページに掲載する要旨（A4、4ページ程度）を作成していただきます。

なお、講演のプログラムは2016年11月18日（金）までに当会のホームページに掲載する予定です（<http://www.metsoc.jp/about/research-groups/longforc>）。

記

日時：2016年12月9日（金）14時00分～17時30分

場所：気象庁3号庁舎2階 3023会議室

テーマ：成層圏-対流圏-雪氷の相互作用と予測可能性

連絡先：平井雅之、萱場互起、後藤敦史（気象庁気候情報課）

extreme@met.kishou.go.jp